



THE EMBASSY OF THE REPUBLIC OF RWANDA TOKYO

ルワンダ-日本ビジネス・ワークショップ
アーネスト・ルワムキョルワンダ共和国大使 開会の挨拶
2020年8月18日

まず初めに、ルワンダ-日本ビジネス・マッチング・ワークショップの主催者の方々に感謝を申し上げます。

通常、セミナーはルワンダと日本の民間企業を中心に、各パートナーとステークホルダーの間で物理的に交流できる場として開催され、企業と個人の経営者が直接顔を合わせて、お互いに有益なビジネス・パートナーシップや取引について話し合います。

しかし、コロナウイルスの世界的な大流行による問題を受けて、直接対面することはできなくなりました。我々は課題から問題の解決策を見出し、それによって可能性や機会は広がります。このコロナウイルスによって私たちの創造性は高まり、生産的に関わるための技術、革新や情報通信技術(ICT)の力は強化されています。

このオンライン・ビジネス・マッチングセミナーとバーチャルな相互交流にルワンダと日本の企業や民間セクターの関係者が一堂に会し、さらに国際協力機構(JICA)、国際連合工業開発機関(UNIDO)、ルワンダ ICT・イノベーション省、ルワンダ ICT 商工会議所、ルワンダ開発局、キガリ・イノベーション・シティや在日ルワンダ共和国大使館等のあらゆるパートナーがリアルタイムで参加できることは、技術と ICT がもたらすこうした可能性を如実に示しています。

これは、次世代のために行うビジネスの方法に影響を与え、変えていくことでしょう。本セミナーには 161 人の個人と企業が参加者すると聞いています。この機会を通して、ルワンダと日本以外のビジネス・パートナーにもアプローチできます。

2020年8月18日～9月10日の開催期間中の4回シリーズのセミナーの交流が、参加企業が生産的なビジネス・パートナーシップを構築する一助になると確信しています。

では、このビジネス・ワークショップの中心的な目標についてお話をし、その内容を示しましょう。

ルワンダは知識集約型経済への転換を図り、アフリカ大陸の中心で地域サービスのハブとなることを目指して、長期ビジョンを策定、実施してきました。

この変革はICT、技術とイノベーションによって支えられ、推進されます。同ビジョンはこれまで速やかに遂行され、目標の実現に向けて進んでいます。

現在、ルワンダには最新のICTインフラが構築されています。7,000 km超の光ファイバー網が整備され、国内全域をカバーし、地域間や世界とつながっています。全国の4G LTE ネットワーク・サービス可能エリアは95%に達しています。ルワンダは既存インフラ、熱意、そして技術革新への寛容さによって、5G革命を受け入れる準備ができています。

世界経済フォーラム(WEF)のネットワーク成熟度指数によると、ルワンダのネットワーク成熟度は東アフリカ地域で1位、アフリカ全体では5位に位置しています。WEFはネットワーク成熟度指数を「国が情報通信技術をいかに巧みに活用して競争力と幸福度を向上させているかを測る尺度」と定義しています。

ルワンダのICTと技術センターは2006年以降、年率11%で成長しておりICTセクターは現在の7億ドルから2025年には250億ドルに拡大すると予測されています。

ICTセクターの継続的な成長を加速するため、我国は公的機関の整備、スキルと人材育成、より強固で効率的な法的規制の枠組み、およびグローバル・パートナーシップの構築に焦点を当てた能力開発に多額の投資を行ってきました。

我国は優れたスキルと革新的な考え方を持つ国内とアフリカの人材のクリティカル・マス(最小必要数)を生み出しつつあります。

ルワンダでは毎年約5万人が高等教育を受けており、そのうち約2千人はICTの資格保有者です。

現在、ルワンダにはアフリカ最上位の科学・技術・工学・数学(STEM)の大

学のうち、カーネギーメロン大学ルワンダ校、アフリカ数理科学研究所(AIMS)、アフリカ・リーダーシップ大学および国際理論物理学センター(ICTP)東アフリカ校の4大学があります。

ルワンダ人の約3割は世界の主要言語のうち最低1か国の言語を流暢に話し、多くは英語とフランス語を話し書く能力があるバイリンガルです。これはグローバル企業にとって魅力的な資質となる可能性があり、ビジネス・プロセッシング・アウトソーシング(BPO)企業には機会を提供しています。

ルワンダの人口の約7割は30歳以下で、基礎学力を身につけることが可能なため、教育水準が高く、企業での教育が可能です。

ICTの分野を含め、日本で研修を受けたルワンダ人は大勢います。その一例として、神戸市や神戸情報大学院大学との連携により、多くのルワンダ人が日本の一流大学で教育を受けました。その大半はIT、工学、化学や経営の優秀な資格を取得しただけではなく、日本語や日本文化をより深く理解して帰国します。こうした状況から日本企業はルワンダにスムーズに参入することが可能になります。

ルワンダは非常に治安が良く、予想通り友好的で快適なビジネス環境が整っています。

世界銀行による「ビジネス環境の現状 2020年」ランキングでルワンダはアフリカでは2位、世界では38位でした。高度にデジタル化された効率的な行政運営を行い、汚職を許さない国ということがその理由でした。

事業登録の所要時間はわずか6時間で、その間に事業者登録は完了し、事業者登録証明書が発行され、必要であれば納税者番号と事業者銀行口座開設の手続きを行えます。

ルワンダ開発局(RDB)は未来の投資家への丁寧なサービスを職務とするワンストップ・センターとして設立された機関です。詳細は www.rdb.rw をご覧ください。

今回の日本ルワンダ・オンライン・ビジネスセミナーは、ルワンダのICTセクター企業が日本のビジネス・パートナーと有意義な交流をする絶好の機会です。

本セミナーは、日本企業にルワンダにおける事業機会を検討し、投資を一考していただくことを目的としています。

参加しているルワンダ企業は日本の友人と協力して収益性の高い持続可能なビジネスを構築し、共に成長することを切望しています。

日本企業には、ルワンダをハブや起点として、アフリカでビジネスを成功させる素晴らしい機会があります。ルワンダ市場への参入を容易にするため、我々は皆様と一緒に仕事をする準備ができています。

ルワンダにおける日本企業の事業機会の模索や投資を支援する中心的な機関は ICT・イノベーション省、ルワンダ開発局、ルワンダ ICT 商工会議所、キガリ・イノベーション・シティや在日ルワンダ共和国大使館などです。

我々は一致協力して、ルワンダ向け投資の全行程において皆様に全面的に支援し、事業を円滑に進めて参ります。

ルワンダ政府は国際的な旅行者のために空港を開放しました。当然ながら、コロナウィルス禍での安全が依然最も重要で、最優先されています。政府は感染者数を抑える対策を実施し、概ね良い結果を得ており、引き続き非常に緊張感を持っています。海外からの旅行者は、ルワンダに到着する 120 時間以内に採取されたサンプルで、有効なコロナウィルス PCR 検査証明書が陰性であれば、国際線の商業便とプライベート・ジェットでルワンダに入国できます。

ビザは到着時に取得できるため、事前に申請する必要はありません。ビジネスと観光どちらのルワンダ訪問も歓迎いたします。

最後に、本セミナーはルワンダのパートナーである JICA と UNIDO のご尽力によって開催できた点を強調したいと思います。

日本とルワンダは良好な 2 国間関係を築いていて、両国には強力な開発協力プログラムがあります。JICA がこの成果重視型パートナーシップを推進する中核を担っています。これは公共投資、民間部門の支援と技術協力、および能力開発に焦点を当てた包括的なパートナーシップです。

またこれはインフラ開発、輸送、エネルギー、農業、水と衛生、ICT、その他優先事項に重点を置いた多分野にわたるパートナーシップでもあります。

本セミナーを支援してくださっている JICA ICT イノベーションエコシステ

ム強化プロジェクトは、この広範な連携の成果で、我々はこの連携をさらに強固なものにしていきたいと考えております。

本プロジェクトのチーフアドバイザーである山中敦之氏にはご尽力とプロジェクトの成功に心から感謝いたします。

また、このパートナーシップの重要なリーダーである UNIDO/UNIDO アフリカ・アドバイザーの Tadesa Dadi Segni 氏にも感謝したいと思います。

本セミナーの主催者の皆様と参加者の皆様に感謝すると共に、具体的なビジネス・パートナーシップの実現につながるイベントの成功を祈念しております。

ご清聴ありがとうございました。